

## 1. 独島：19世紀の日本の古地図に表記なし

1877年に作成された「大日本全図」公開（朝鮮日報・日本語版）

記事入力：2010/02/18 12:01:11

日本の領土に独島(日本名：竹島)が含まれていない日本の古地図が新たに発見された。

世宗大の保坂祐二教授は17日、東北アジア歴史財団で行われた記者会見で、最近入手した「大日本全図」を公開した。縦123センチ、横115センチのこの地図は、1877年に日本の陸軍参謀局が製作したもので、日本の領土全体を詳細に表記しているが、独島は含まれていない。また保坂教授によると、89年に陸地測量部が初めて縮尺20万分の1の日本地図を制作したが、その区域一覧図にも独島は表示されていないという。東北アジア歴史財団独島研究所のパク・ヒョンジン所長は、「1905年以前に日本が独島を領有していたという日本の主張が虚偽であることを立証する証拠」と説明した。

これと共に保坂教授は、日本で19世紀後半まで「日本海」という名称が定着していなかったことを示す「官許大日本四神全図」も公開した。これは、画家兼地図製作家の橋本玉蘭が、1868年に日本政府の許可を得て製作した日本およびその周辺の地図だ。この地図には、韓半島(朝鮮半島)の東海岸は「朝鮮海」、日本本土の西側は「日本西海」と表記されている。保坂教授は、「東海と日本海を併記しようという最近の主張を後押しする、かなり有力な資料」と語った。

東北アジア歴史財団は、これらの地図を含め、東海と独島関連の古地図40点を3月2日から9日まで国会図書館にて展示する予定だ。このうち、東海を「韓国海」「日本海」と併記したフランスの「日本王国図」(1750年)や、イギリスの王室地理学者が東海をユーラシア大陸の東側の海という意味で「Eastern Sea」と表記した「インドおよび中国地図」(1721年)、同じく東海を「Eastern Sea」と記録したマルコ・ポーロの旅行地図(1744)など10点余りは、今回初公開となる。

キム・ギョンウン記者

<http://www.chosunonline.com/news/20100218000057>

報道された地図のうち、「大日本全図」は2009年2月に国立公文書館で竹島資料室が調査済。分析の結果、「大日本全図」には、現在の竹島以外にも、記載されていない島が多く存在することが判明した。北海道の渡島小島(おしまこじま、松前町の沖約23km)、青森県の久六島(きゅうろくじま、深浦町の沖約30km)、伊豆諸島の青ヶ島と小笠原諸島の間に位置する、ベヨネース列岩、須美寿島、鳥島、孀婦岩などがこの地図には記載されていないが、これらの島は日本領である。したがって、この地図に現在の竹島が記載されないことをもって、この地図が「1905年以前に日本が独島を領有していたという日本の主張が虚偽であることを立証する証拠」にはならない。また韓国側の地図では、1905年以前に現在の竹島が韓国領であることを示す地図は1枚も見つからない。



「大日本全図」(朝鮮日報ホームページより)

## 2. [Why] 日本が必死で搬出阻もうと思った「独島立て札」の秘密 (朝鮮日報・韓国語版)

キム・ドンソプ記者 dskim@chosun.com

入力：2010.03.06 02:57 / 修正：2010.03.06 11:02

韓国人が去年競売で購入して国内に... 初公開

1837年新潟海岸にかかって「鬱陵島右側の島は韓国の地、航海嚴重に禁止」書かれて  
日言論「立て札韓国行ってはいけない」

日本が韓国に売られることを憂慮した日本の江戸時代の木の立て札が劇的に韓国に越えてきた。

木の立て札には、1837年独島と鬱陵島が韓国の土地のため日本人の航海を禁止するという内容が盛り込まれている。

この立て札は昨年3月日本京都で競売に出た。日本の産経新聞は「当時日本では独島を鬱陵島と呼んで、今の独島と違う所であるのに、韓国側がこれを利用して自国の領土と主張する誤った主張をする」とし「この立て札が韓国側に移ってはいけない」というように

報道した。

そうしたこの立て札を韓国家事業家が 150 万円(2000 万ウォン)で入手した。立て札は日本の江戸幕府が独島と鬱陵島周辺で操業をした自国の漁民 2 人を海禁令違反で処刑した翌年に作ったものだ。

木の立て札は 1837 年 2 月江戸幕府の命令を受けて高田藩が新潟県地域の海岸に掲示したもので、横 72 cm、縦 33 cmの大きさだ。立て札の上側には二つの輪が付いていて、掲示板にかけたものとみられる。

立て札には「竹島(鬱陵島の日本名)は元禄(1688~1704 年)時代から渡海停止を命令した所であるので、他の国の土地に航海することを厳重に禁止する」とし、「竹島の右側の島も航海してはいけない」と記録されている。右側の島というのは独島をいうのだ。

イ・サンテ国際文化大学院大学碩座教授は「この立て札は竹島(鬱陵島)の右側の島(独島)まで航海禁止を下したと記録されて、日本が独島を韓国の土地だと自ら認めた重要な史料」と述べた。まさにこの「右側の島」であるという一節のため日本側が立て札の搬出を阻もうとしたのだ。

渡海禁止令の立て札は日本の鳥取県浜田市郷土史料館にも一つ残っている。横 1m、縦 50 cmの大きさで今回発見された立て札より 2 年後の 1839 年に作られたものだ。

しかしこの立て札は竹島(鬱陵島)に渡海禁止令を下したと記録されて日本側は独島は該当しないと主張してきた。一方私たちは独島が竹島(鬱陵島)の付属島だから特別に記載しなかったという論理を展開した。

しかし今回の立て札の発見で、日本が独島を自国の土地から排除したことが明確になったのだ。立て札は引き続き「海上で他の国の船と会わないようにして、できる限り遠海に出ないように命ずる」となっている。

当時の日本の記録をみれば「江戸幕府の渡海禁止通知は立て札にして掲示板にかけて、小代官(治安担当者)は津々浦々にこれを知らせなければならない」となっている。これによってこれらの鬱陵島・独島渡海禁止令の立て札は、日本の海岸のあちこちに立てられたものと推定される。

この立て札は昨年 3 月 15 日日本の競売会社である古裂会で、価格 120 万円で公開競売に出た。日本人 3 人が 138 万円と 145 万円、150 万円で応札した。5 万円差で落札されたものを韓国家事業家が引き取った。

この立て札が競売に出ながら、関心を注いだ日本言論は落札された後にも、150 万円で売れたが落札者が誰なのかに対しては競売会社が緘口しているという報道とともに、立て札の行方に対して関心を示した。

韓国家事業家は「この立て札が韓国に移ってはいけないという論調で日本言論が関心を示して驚いた」とし「日本側が搬出を禁止するかもしれないと思うと、荷物を包んだり解いたりを何回も繰り返した」と述べた。

この事業家は事態が静かになるのを待って、10 ヶ月後の今年 1 月には国内に持ちこんだ。立て札は国内に入って来た後、小さな虫が食べた穴から木の粉がずっと流れ出て、国内の文化遺産保存研究所で保存処理作業を経て公開された。

立て札は殺菌殺虫機能を持つように燻蒸処理して、こなごなになった表面は伝統的な接着剤で処理した。木材質は松であり、かすんでいる字は赤外線撮影で判読した。



日本の競売市場で 150 万円(2000 万ウォン)で売れて韓国に搬入された 1837 年の日本の江戸幕府時代の「独島渡海禁止」立て札。横 72 cm、縦 33 cmの大きさの松の立て札で、上に 2 個の輪が付いている。独島と鬱陵島が韓国の土地だと記録されている。写真はかすんでいる字を判読するために赤外線撮影をしたものだ。

[http://news.chosun.com/site/data/html\\_dir/2010/03/05/2010030501274.html](http://news.chosun.com/site/data/html_dir/2010/03/05/2010030501274.html)

上記の報道のなかでは、まず、「立て札は日本の江戸幕府が独島と鬱陵島周辺で操業をした自国の漁民 2 人を海禁令違反で処刑した翌年に作ったものだ」とあるが、これは明らかに間違いである。当時の竹島（現在の鬱陵島）への渡海禁止に違反したため、罰せられたのであり、現在の竹島については言及されていない。

続いて、触書（立て札）の解釈について、「イ・サンテ国際文化大学院大学碩座教授は「この立て札は竹島(鬱陵島)の右側の島(独島)まで航海禁止を下したと記録されて、日本が独島を韓国の土地だと自ら認めた重要な史料」と述べた。まさにこの「右側の島」であるという一節のため日本側が立て札の搬出を阻もうとしたのだ」とあるが、これも明確に間違いである。

触書（立て札）の本文 5 行目以下に

- 5 行目 往古伯州米子之者も渡海魚漁
- 6 行目 致し候得とも元禄之度朝鮮國江
- 7 行目 御渡二相成候以来渡海停止被
- 8 行目 仰付候場所二在之候都異國渡海之儀
- 9 行目 重御制禁候 向後右嶋之儀も同様
- 10 行目 相心得渡海致ましく候勿論國々之

とあるうち、「右嶋之儀も同様相心得渡海致ましく候」を竹島の右側の島云々と読み間違えたものである。この文は、その前の「都(すべて)異國渡海之儀重御制禁...」を受けて、右島(竹島=鬱陵島)も(異國渡海と)同様に心得て、渡海してはいけない、としているものである。つまり、右島とは、右にある島という意味ではなく、右で述べた島(竹島=鬱陵島)のことを指すわけであり、現在の竹島については言及していないのである。

### 3 . 19 世紀、西洋は鬱陵島と独島を見分けていた

【新刊】ミハイル・アレクサンドロビッチ・ポジオ著、イ・ジェフン訳

『ロシアの外交官が見た近代韓国』(東北アジア歴史財団)(朝鮮日報・日本語版)

記事入力 : 2010/03/07 08:57:33

1880 年代初め、中国と日本における外交業務を担当していたロシアの外交官ポジオは、1885 年に『韓国概観』を著述した。本書はその翻訳版。19 世紀末の韓国関連情報を集大成した百科事典的な一冊。鬱陵島の名称と位置を正確に記述しており、当時西洋では鬱陵島と独島(日本名:竹島)を混同していなかったことを示している。544 ページ、2 万ウォン(約 1540 円)。

<http://www.chosunonline.com/news/20100307000001>

---

< 参考 1 > 「独島韓国の地」言及、ロシア外交官著書出版 (YTN ニュース・韓国語版)

入力時刻 : 2010-02-22 13:22

今日日本で主張する竹島の日を迎え、独島が韓国領土であることを明らかに言及したロシア外交官の著書がわが国で出版されました。

東北アジア歴史財団は旧韓国末ロシア外務省に勤務しながら、中国と日本関連外交業務を担当したミハイル・アレクサンドロビッチ・ポジオの著書「ロシア外交官が見た近代韓国」を出しました。

1892 年発刊されたこの本は、韓国に関する総合案内書で、地理情報を説明しながら「鬱陵島」の地名を明らかに使用し、独島の東島と西島を区分して表記するなど独島が韓国の領土であることを明らかに述べています。

[http://www.ytn.co.kr/\\_ln/0103\\_201002221322357234](http://www.ytn.co.kr/_ln/0103_201002221322357234)

---

< 参考 2 > 「ロシア外交官が見た近代韓国」 翻訳したイ・ゼフン教授

(クッキーニュース・韓国語版)

[2010.02.25 21:28]

「19 世紀末ロシアに韓国紹介した最初の本大きい意味」

19 世紀末ロシア外交官は韓国をどのように認識していただろうか。

東北アジア歴史財団が出版した「ロシア外交官が見た近代韓国」は旧韓国末ロシア外務省に勤務しながら、中国及び日本関連外交業務を担当したミハイル・アレクサンドロビッチ・ポジオ(1850 ~ 1889)の著書を翻訳したのだ。1892 年「韓国概観」という題目でロシアで出版されたもので、19 世紀後半韓国の地理的概要、韓国の国王、国家制度、裁判制度、社会階層、教育、家族生活、社会生活、建築物、宗教、産業と交易など 12 の章に分けて総合的に紹介している。

翻訳者であるイ・ゼフン(45·写真) 成均館大東アジア学院研究教授は「19 世紀末韓国と関連する知識と情報を集大成した総合案内の性格を帯びており、ロシアに韓国を紹介した最初の本として挙げられる」と述べた。地理概要編では、韓国を8つの道に分けて、位置と人口数、地理的特性などを紹介しており、鬱陵島を含んだ東海岸に対しても詳細に記録している。「鬱陵島」という名称と位置を正確に記述している。また韓半島東海の名前を韓国に近い側は「東海」、日本に近い側は「日本海」と現わした。原著作に添付された地図には独島の西島をオリヴツァ、東島をメネライと表記して独島が韓国の領土であることを確かにした。

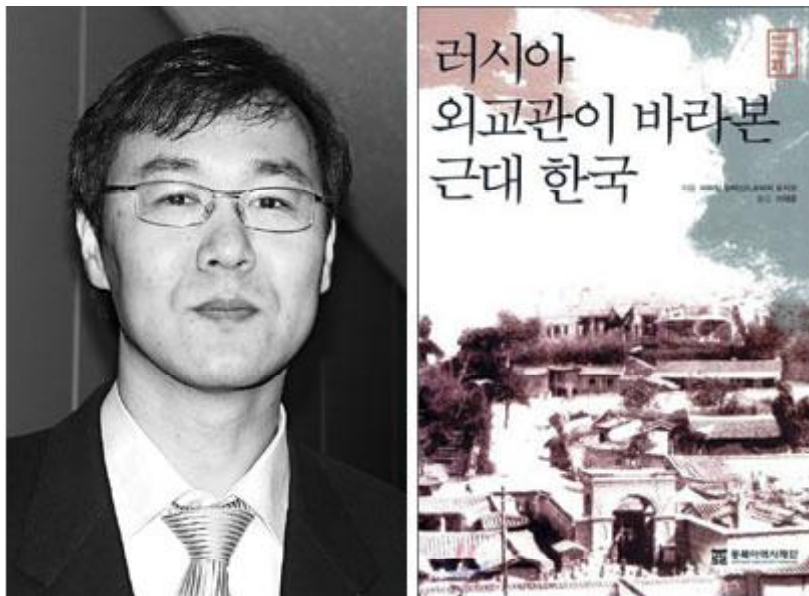
1895 年ドイツ語で翻訳、出版されてロシアだけでなく、西欧人の韓国に対するイメージ形成に大きな影響を及ぼしたものと推定される。ポジオの 1880 年代ロシアの外交官として5年の間中国と日本など極東地方に駐在しながら収集した韓国に対する資料をもとに使った。近代韓国の状況が詳細に記録されているが、朝鮮を中国の属国と見たとか、釜山地域を壬辰の乱以後釜山の植民地と描いたことなど、歴史的事実と違って記述された部分も目立つ。

イ研究教授は「ポジオが韓国の状況を直接見たのではなく、中国と日本で会った現地人に見て聞いたものなどを整理した資料をもとに使用されたため」とし、「当時西欧人が韓国をどのように認識していたのかを如実に示すという点で意味がある」と述べた。

近現代韓・露関係史専門家であるイ研究教授は「翻訳作業に去年初めから没頭し、ぶっ通しで1年がかかった」とし「現在と意味が違って使われるロシア古語が多く翻訳が大変だった」と打ち明けた。

ラ・ドンチョル記者 rdchul@kmib.co.kr

<http://news.kukinews.com/article/view.asp?page=1&gCode=cul&arcid=0003446654&code=13150000>



韓国各紙のニュース（韓国語版）では、「独島韓国の地」言及、ロシア外交官著書出版」とあったが、朝鮮日報日本語版では、そうした言及はなく、単に「19世紀、西洋は鬱陵島と独島を見分けていた」とあるだけである。

竹島資料室では、3月中旬に、1892年のロシア語版が国立国会図書館にあることを確認し、本の一部の複写を入手し、分析した。

報道には「原著作に添付された地図には独島の西島をオリヴツァ、東島をメネライと表記して独島が韓国の領土であることを確かにした」としているが、そうした証拠はない（別紙参照）。原著作に添付された地図「朝鮮またはコリア」と題するもので、朝鮮半島東岸に沿って「日本海」という文字が南北に長く書かれ、アルゴノート島、鬱陵島（ダジュレー）、オリヴツァ瀬、メネライ瀬が描かれている。このうち、オリヴツァ瀬、メネライ瀬が現在の竹島にあたる。この地図には、ロシア沿海州、中国東北部、日本では、対馬、吉岐、九州、本州の一部が描かれている。陸上には、朝鮮八道の境界線や国境線と思われる線が破線で描かれている。海上には国境線のようなものは描かれていない。また彩色図ではないので、色による所属の表示もない。したがって、この地図に、現在の竹島が記されていることをもって、現在の竹島が朝鮮領であったということにはならない。さらに、島の名称に注目すると、現在の鬱陵島は朝鮮式名称の鬱陵島と西洋式名称のダジュレーが両方記され、朝鮮式名称があることから、当時朝鮮領と認識されていたことが分かる。一方、現在の竹島は、朝鮮式名称ではなく、ロシア人の発見によるオリヴツァ瀬、メネライ瀬という名前が記されていることから、この地図にある2つの「瀬」（現在の竹島）を朝鮮領と著者が認識していたとはいえない。

本文の3ページには次のような記載がある。「朝鮮半島は東アジア高原の東端の辺境に横たわっており、（ケルパルト島又はチェチュを含めて）北緯33度15分及び42度25分、グリニッチ子午線東経124度20分及び130度15分の間に横たわっている。」つまり、ここでは朝鮮（もしくは朝鮮半島）の地理的範囲が記されており、その範囲には、済州島は含まれているのに対して、鬱陵島は含まれていない。なお、済州島も鬱陵島も朝鮮式名称と西洋式名称が両方記されていることから、ともに朝鮮領と認識していたことが分かる。しかしながら、現在の竹島は、地理的範囲にも含まれず、朝鮮式名称も使用されていないことから、著者は朝鮮領と認識していたとはいえない。

#### 4. 「独島は朝鮮領土」、日本国家機関の地図公開

（聯合ニュース・日本語版）

2010/04/01 19:58 KST

【慶山1日聯合ニュース】嶺南大学の独島（日本名：竹島）研究所は1日、独島を韓国領土と表記した日本地図「日露清韓明細新地図」を公開した。

同地図は1903年に日本の「帝国陸海測量部」が編さんしたもので、ここ10年にわたり独島関連資料を収集してきた大邱市の市民が昨年未に入手し、このほど独島研究所に鑑定を依頼した。

地図はアジア、欧州、アフリカまでが正確な尺度で精密に製作され、旧日本名の竹島（鬱陵島）、松島（独島）を「朝鮮界（朝鮮の領土）」に含めている。特に、独島と隠岐諸島

の間に韓日の国境線を引いており、日本政府が独島を当時の大韓帝国の領土と認めていたことがわかる。

この地図では台湾が日本領土に含まれている。独島研究所の金和経(キム・ファギョン)所長は、地図には日本政府が日清戦争で取得した台湾を自国領土として公式化する目的があったようだと言及。日本側は自ら国境線を引き、独島を韓国領土として認めた証拠があるだけに、独島領有権主張を取り下げるべきだと促した。

[http://img.yonhapnews.co.kr/Basic/Article/JP/20100401/20100401200038\\_bodyfile.jpg](http://img.yonhapnews.co.kr/Basic/Article/JP/20100401/20100401200038_bodyfile.jpg)

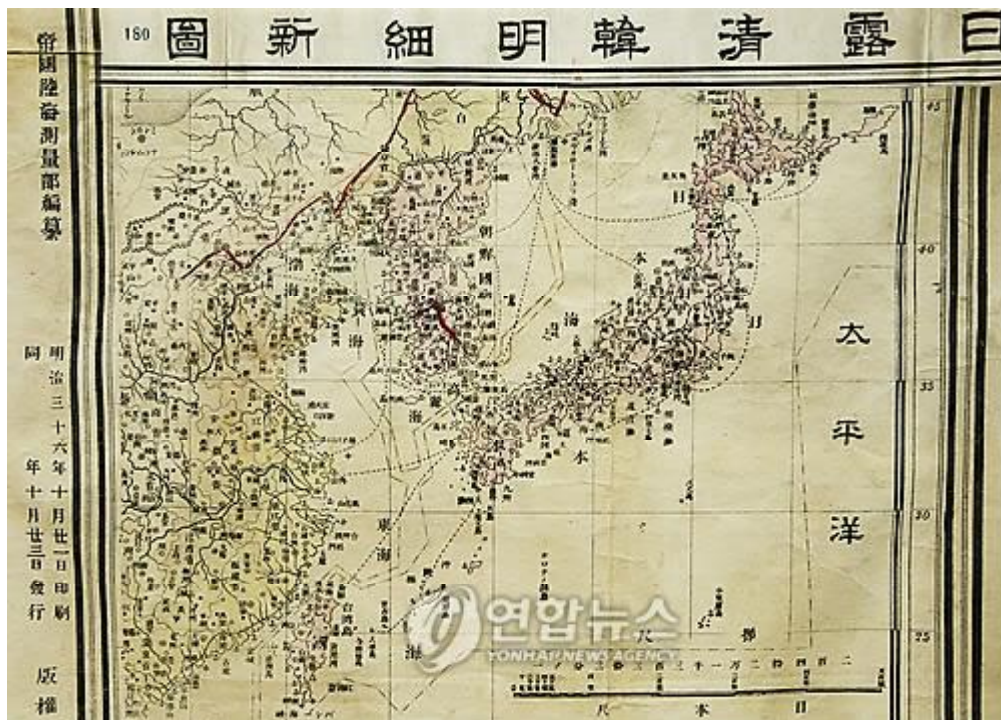
公開された地図。台湾は青線の日本領土に含まれているが、独島は黄線の朝鮮領に入っている = 1日、慶山(聯合ニュース)

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/relation/2010/04/01/0400000000AJP20100401002700882.HTML>

報道では、地図の名称を「日露清韓明細新地図」としているが、地図の正しい名称は、「日露清韓明細新図」である。

竹島資料室では、2009年4月に、この「日露清韓明細新図」の明治37年(1904)版を、島根県隠岐の島町個人宅の地図調査ですでに発見、調査していた。調査、分析の結果、今回の報道、嶺南大学独島研究所の鑑定には問題がある。

まず、報道では、「地図はアジア、欧州、アフリカまでが正確な尺度で精密に製作され」とあるものの、聯合ニュース韓国語版で掲載された写真は、地図の表題の位置、地図の编者、作成年、版權所有者などの部分の位置が、原図とは違い、加工されている。

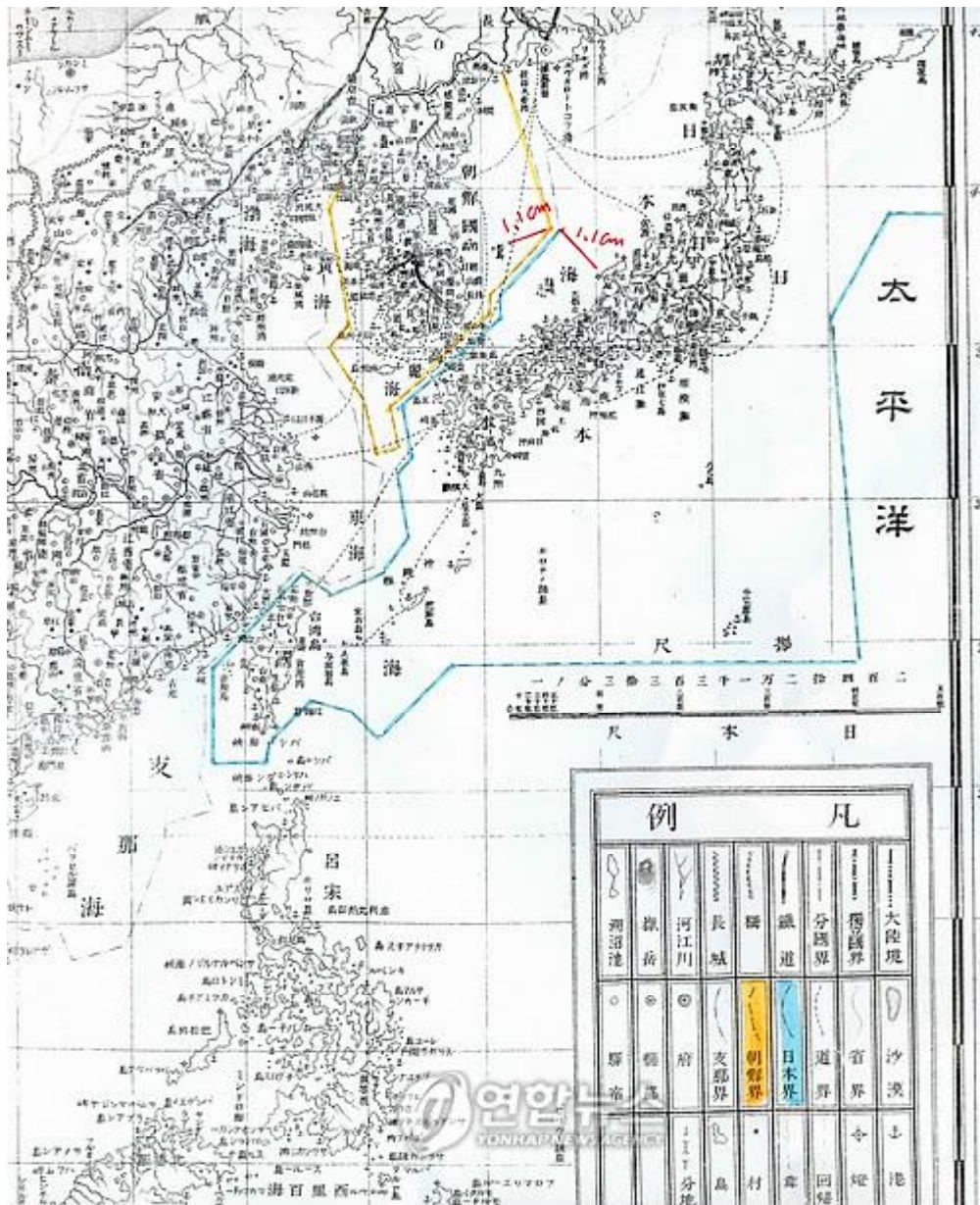


<写真1> 聯合ニュース韓国語版より

[http://img.yonhapnews.co.kr/photo/yna/YH/2010/04/01/PYH2010040104860005300\\_P2.jpg](http://img.yonhapnews.co.kr/photo/yna/YH/2010/04/01/PYH2010040104860005300_P2.jpg)



加工された図では、日本、朝鮮、中国の一部だけ掲載され、そのまわりに、枠が作られている。さらに日本と朝鮮との境界線は、原図では彩色されていないにもかかわらず、青色、黄色に彩色されている。竹島問題とは直接関係しないものの、一般的に写真データを加工する場合には、写真データを加工した内容を注記するものである。こうした注記なしの加工は、写真データ自体の信頼性を揺るがすものである。



<写真2> 聯合ニュース韓国語版より

[http://img.yonhapnews.co.kr/photo/yna/YH/2010/04/01/PYH2010040104970005300\\_P2.jpg](http://img.yonhapnews.co.kr/photo/yna/YH/2010/04/01/PYH2010040104970005300_P2.jpg)

日本界を青色、朝鮮界を黄色に彩色している。

次に、地図に掲載された、竹島と松島を、何の根拠も示さずに、現在の鬱陵島と竹島にあてているが、これは明確に間違っている。地図の位置からすると、この地図の竹島はアルゴノート島（実際には存在しない島）、松島はダジュレー島（現在の鬱陵島）であり、現在の竹島は記されていないのである。さらに明治 13 年（1880）に軍艦天城の測量により、鬱陵島を松島と比定してから、日本政府刊行地図では、松島は現在の鬱陵島としている。したがって、この地図では、現在の鬱陵島までを朝鮮領であることを示していることとなる。また、この地図が刊行された明治 37 年（1904）以前にわが国に編入された南鳥島、硫黄列島（火山列島）、沖大東島など、日本列島から離れた日本領の離島をこの地図では記していないことから、現在の竹島が記されていなくとも、日本領でないことを示しているわけではない。

報道では、この地図は日本の国家機関が作成したものであり、「日本政府が独島を当時の大韓帝国の領土と認めていたことがわかる」としているが、これも間違いである。地図の注記には、「帝国陸海測量部編纂」とあるが、当時陸地測量部という機関は存在したものの、「陸海測量部」という機関は存在しない。この地図は陸地測量部発行の地図と体裁が異なっており、発行者、印刷所などは東京の民間人の名前が記されている。また日本列島の形もいびつで正確ではない。明治大学蘆田文庫の目録によると、隠岐の島町個人所蔵の地図と同じ明治 37 年の所蔵があり、目録には「袋付。袋に「軍隊用ポケット入」とある。」という注記からすると 時局に伴い、外地に出征する兵隊向けに売り出したものと考えられ、「帝国陸海測量部編纂」という文字は、宣伝用に適宜印刷したとみられる。つまり、この地図は、地図の形式、記載内容などから、国家機関作成の地図ではなく、民間刊行の地図であることが分かる。



<写真 3 > 隠岐の島町個人所蔵「日露清韓明細新図」(全体)



< 写真 4 > 隠岐の島町個人所蔵「日露清韓明細新図」(部分)

<別紙地図> ミハイル・アレクサンドロビッチ・ポジオ著『韓国概観』(1892年)付図